

令和7年度第5回 三重県河川整備計画流域委員会 議事要旨

<安濃川・岩田川水系河川整備計画に係る意見聴取>

日時:令和8年2月5日(木)

10時30分~11時30分

場所:三重県建設技術センター 鳥居支所

- 1.開会
- 2.主催者挨拶
- 3.議事

安濃川水系・岩田川水系河川整備計画に係る意見聴取及び現地視察

- 4.議事要旨

安濃川水系・岩田川水系河川整備計画について、以下の通り議事を行った。

【委員】

説明の中で遊水地の話が出たが、どのあたりがどのように指定されているのか教えていただきたい。

【事務局】

安濃川は歴史的に複数の霞提を有しており、霞提からは洪水が越流する構造になっています。このため、基本方針ではこのような特性を踏まえて遊水地による洪水調節を計画に位置づけています。これらの霞提や遊水機能は現時点では河川管理施設としての正式な位置づけはなく、あくまで地元の方のご協力のもと、昔からの治水対策として残っているものになります。

【委員】

遊水地は現行の整備計画では正式に位置づけられていないが、地元の方の理解は得られているという理解でよいか。

【事務局】

藤堂藩の頃、城下町を守るため上流側で水を貯留するという考え方で、上流の霞堤から水田へ洪水を流して遊水地にするシステムが作られました。その後、地形は多少変わりながら現在も続いている歴史があります。基本方針で遊水地を考える際、昔からの霞堤のような機能がある場所を活用する観点で検討しました。ただ、基本方針は将来的な計画であり、具体的な施設等の検討には至っておらず、現行の整備計画の期間中では遊水地の整備を位置付けていません。

【委員】

以前、住民の方から「この辺は丸の内を守るために内側の堤防が高くなってる」という話を聞いたが、そのようなことはあるのか。

【事務局】

市街地の上流側に霞堤があり、昔の洪水防御の形態が残ってる状況ではありますが、下流の堤防高について高くしているということはありません。

【委員】

霞堤があるような区域で、例えば宅地開発のような話もあると思うが、都市計画との連携はされているのか。

【事務局】

本来は流域治水として対応すべきことですが連携できていないのが現状で、昔からの遊水地のような機能があるところに宅地ができることについては、危機感を感じています。

【委員】

基本方針として将来位置づけていることや、整備計画でまだ着手できていないことは理解できるが、現状を情報公開してしっかり共有することが必要だと思う。

【事務局】

現行の整備計画が策定された平成15年度以降に流域治水という考え方が出てきて、以前は川だけで対応していたことが、今は川以外の関係者等もご協力いただくことになっていますので、今回の整備計画見直しに当たっては、流域治水も考慮して検討していきたいと考えています。

【委員】

安濃川水系と岩田川水系の整備計画における流量配分について、それぞれ三泗川の流量が25m³/sと35m³/sで異なっているが、なぜ整合していないのか。

【事務局】

安濃川から三泗川に分派するのは25 m³/sですが、三泗川自体の流域があり、その分を加算して岩田川への合流は35 m³/sになります。

【委員】

安濃川上流にあるダムの目的は何か。

【事務局】

安濃ダムは利水ダムで、治水協定を結んで事前放流等の取組をしていますが、基本的には農林で運用しています。

【委員】

安濃川下流の水質があまり良好でないが、下流域における下水道整備はどのような状況か。

【事務局】

津市の下流域は合流式下水道で既に整備されております。また、旧安濃町など上流側の方は、流域下水道として分流式で整備が進められています。

【委員】

安濃川は水質環境基準でA類型となっているが、現状はA類型の基準を超えているため、B類型になることはないのか。

【事務局】

水質の類型指定は環境部局が実施しており、類型指定の考え方については、ここでは即答できません。なお、岩田川の方は昔から水質があまり良くないと言われている川で、今も B 類型です。一方で、岩田川をきれいになりたいという津市民の活動があります。

【委員】

魚類について環境 DNA 調査が実施されているが、どこで採水したのか。

【事務局】

過去に水辺の国勢調査を実施した地点と同じ地点で実施しています。

【委員】

ナゴヤダルマガエルが生息しているとのことだが、三泗川の湿地にいたのか。

【事務局】

三泗川の湿地で確認されたのではなく、平成 6 年度の環境管理基本計画策定業務において、湿地を含むエリアが分布域という情報がありました。ダルマガエルが確認されてはいませんが、現計画では湿地は多様な生物の生息環境にもなっていることから、保全に配慮した整備を進める方針としています。

【委員】

ダルマガエルは通常、水田に生息しており川にはいないので、整備計画で配慮の必要性はあまりないと思う。周辺の水田の用排水路などから農地への流入がある場合は生息の可能性があると思うので、地域の方々に流入状況を聞いてもらえたらよいと思う。

【委員】

この流域の歴史的な経緯がよく分かった。補足すると、下流の方は「安濃津」であり、古い文献では「草蔭阿野国(安濃国)」という言葉もあって、流域が安濃川で形成されていることを地名などで辿ることができる。古い段階から流域が一つの地域のスケールになっていて、面白い地域だと思う。

【事務局】

古くは「安濃津」が京都への窓口になっており、ここから荷揚げをして京都の方へ伊勢街道を運ばれて行ったそうです。現地視察でもいろいろ見ていただいて、教えていただければと思います。

以上